

Cafe Nalle カフェトーク

長屋カフェには、このところ毎回参加されているお医者さんがいます。ボランティアに熱心で、一昨年には都知事から長年のボランティア活動について表彰を受けたという精神科医の石山先生です。今回はそんな石山先生にお話を伺いました。



石山 淳一先生

キッカケは東京都からの要望

認知症カフェに来たきっかけは、都庁の人から、時間があれば地域の認知症カフェに顔を出して欲しいと言う要望があったからです。参加してみると、いろいろな専門職の方から、ご家族の方、一人暮らしの男性の方まで、さまざまな方がいて素晴らしいと思い、それから毎回参加させていただいています。

最近ではパソコンを持参しています

1人でも2人でも多く相談に乗ればと思います。1人でも2人でも多く相談に乗ればと思います。1人でも2人でも多く相談に乗ればと思います。1人でも2人でも多く相談に乗ればと思います。

いての話になったのですが、ちょっと今の時代、ストレスについて過剰になり過ぎていくように思いますね。ストレスは人間にとって無くてはならないものという視点から、いくつか説明させていただきます。

認知症カフェはソーシャルキャピタル

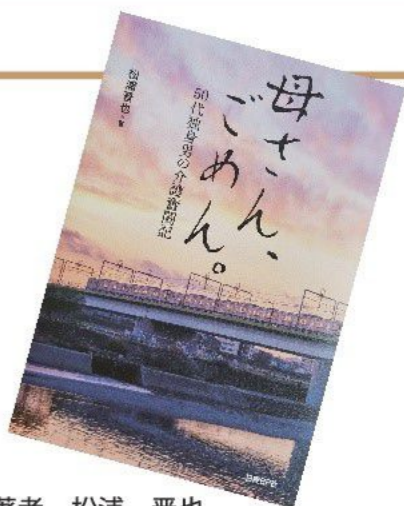
社会や地域の信頼関係や結びつきを表す概念としてソーシャルキャピタルという言葉があります。認知症カフェはそれに当たると思います。地域の健康指数は高くなります。こういう場がもつともっと拡がっていくといい。何も認知症だけでなく、認知症カフェという名の下に、いろいろなコミュニケーションができる場に育つといいと思います。認知症カフェを開催している皆さんには、ぜひ頑張ってもらいたいですね。



おすすめ BOOK 紹介

母さん、ごめん。 50代独身男の介護奮闘記

男性、50代。さまざまな独身で実家に母と同居。ところが気丈夫だった母親がアルツハイマー病に。認知症についての知識も介護保険の利用方法も知らなかった著者は悪戦苦闘。仕事にも支障をきたす……。この本は家族に「ごめん」と言わないためのマニュアル本と言えるかもしれない。



著者 松浦 晋也
発行 日経BP社 1,300円+税

シニアズニッポン認知症カフェ探訪記

岡山県倉敷市
「認知症カフェ・房舎」

倉敷市の中心から沿岸部のコンビナートをつなぐ水島臨海鉄道。通勤時間帯を過ぎた車内は人影まばらで、「球場前」駅で下車したのは僕以外にはいなかった。

この地に、たったひとりで認知症カフェを開いている女性がいるという。

「認知症カフェ・房舎」は、迷路のような住宅地の奥にひっそりと佇んでいた。店主、武南恵美子さんは、10年間にわたる実母の認知症介護の経験から、当事者や家族がいつでも駆け込める場所が必要だとして、自宅に認知症カフェを開いた。

立ち上げの際、補助金など行政による応援の話や、ボランティアの申し出もあつたそうだが、自分ひとりでできることを続けていきたいと考えてお断りしたそうだ。

「房舎」の営業時間は10時30分から18時まで。定休日の水曜などを除き、基本的に毎日開いている。おひとりで大変でしょう、と尋ねると、「ただの暇



な喫茶店よ」と武南さんは朗らかに笑った。

カフェには武南さんの人柄に惹かれるように、ひとり、またひとりと来訪者が続く。ここでしか話せない悩み事がある、という介護経験のある女性ともお会いした。

また、武南さんは、いわゆる「コミ

屋敷」となってしまった近隣の住人にも気を配っている。ゆっくり時間をかけてその方との関係を再構築し、解決の糸口を作ってきたという。

武南さんの言う「ひとりでできること」とはそこまで含むのかと、息を飲んだ。

「房舎」は日本で一番小さく、そして美しい認知症カフェだと思う。壁に掛けられた絵、食事を供される器、活けられた花、そして椅子やテーブル、隅々までこだわりが感じられる。

東京の美大を出ているという武南さん。たまたまその大学は僕の生まれ育った鷹の台という町にある。かつて、玉川上水の緑道ですれ違ったことがあつたかもしれない。それはなかなかロマンチックな想像に思えた。

武南さんは試作中だという小さな作品を見せてくれた。それは折り鶴をあしらった名刺サイズのカードで、翌年に予定されていた国際会議の記念品にしたいと言っていた。



を見ていたところ、ふと見覚えのあるものが映し出された。外国からの参加者がプローチのように胸元につけていたのは、武南さんの折り鶴のカードだった。

真に優れたアートの力は、認知症の古い疾病観を変えうる最も有効な手だと思ふ。

今日も武南さんが「房舎」に誰かを迎え入れているのかと思うと、僕は希望を感じる。

コスガ 聡一さん
フォトジャーナリスト
全国100か所以上の認知症カフェを巡り、ブログや雑誌などでその様子を紹介している。ブログ「全国認知症カフェガイド on the WEB」案内人。